

温泉成分等揭示表

施設名 浴室名	岸 権 旅 館
------------	---------

利用温泉

源泉名：総合湯（混合泉）（伊香保温泉）

温泉の泉質：カルシウム・ナトリウム-硫酸塩・炭酸水素塩・塩化物温泉(中性低張性温泉)

●温泉1kg中の成分

泉温(源泉) 40.9℃	(利用施設) 41℃	水素イオン(pH)	6.4
蒸気残留物	1.04g/kg	成分総計	1.28g/kg
陽イオン	ミリグラム	陰イオン	ミリグラム
ナトリウムイオン(Na ⁺)	105	フッ素イオン(F ⁻)	0.3
カリウムイオン(K ⁺)	10.2	塩素イオン(Cl ⁻)	118
マグネシウムイオン(Mg ²⁺)	29.5	硫酸イオン(SO ₄ ²⁻)	301
カルシウムイオン(Ca ²⁺)	142	炭酸水素イオン(HCO ₃ ⁻)	282
鉄(II)イオン(Fe ²⁺)	8.28		
マンガンイオン(Mn ²⁺)	1.42		
アルミニウムイオン(Al ³⁺)	<0.05		
陽イオン計	296	陰イオン計	701
その他の微量成分	総ヒ素:0.015mg/kg 鉛イオン:検出せず 銅イオン:検出せず 総水銀:検出せず		

分析年月日 平成 9年 7月18日 登録分析機関 (社)群馬県薬剤師会 群馬薬第 2 号

温泉利用状況

加水の状況	加水していません。
加温の状況	入浴に適した温度に保つため加温しています。
循環・ろ過状況	循環ろ過装置は使用していません。
入浴剤の有無	入浴剤は使用していません。
消毒処理の状況	2日に一度完全に浴槽温泉を換え十分清掃しているため消毒はしていません。

入浴を控えた方がよい疾患及び症状

(1)この温泉固有の禁忌症

(2)温泉の一般的禁忌症

急性疾患（特に熱のある場合）、活動性の結核、悪性腫瘍、重い心臓病、呼吸不全、腎不全、出血性疾患、高度の貧血、その他一般に病勢進行中の疾患、妊娠中（とくに初期と末期）

入浴をすると良い疾患及び症状

(1)この温泉固有の適応症

動脈硬化症、きりきず、やけど、慢性皮膚病、虚弱児童、慢性婦人病

(2)温泉の一般的適応症

神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、慢性消化器病、痔疾、冷え症、病後回復期、疲労回復、健康増進

温泉利用方法及び注意事項

○一般的な入浴の場合、次のことに十分注意してください。

- 1 熱い湯に急に入ったり、長湯をするとめまいなどを起こすことがあります。始めは3～10分位とし、慣れるにしたがって延長してください。
- 2 浴槽には静かに入り、浴後は湯冷めに注意し、しばらくは安静にしてください。運動浴は全く別の専用施設で行う。
- 3 浴後、身体についた成分は洗い流さないでください。ただし、かぶれ症の方や湯ただれを起こしやすい人は、逆に浴後真水で身体を洗うか、温泉成分を拭き取ってください。(強塩泉及び酸性泉の場合)
- 4 次の疾患については、原則として高温浴(42℃以上)を禁忌とする。高血圧症、心臓病、高度の動脈硬化症
- 5 飲酒後の入浴は特に注意し、空腹・満腹時の入浴は控えてください。
- 6 入浴前後には水分の摂取を心がけてください。高齢者の方は特に注意が必要です。
- 7 酸性泉の場合は入浴中タオルなどでこすると皮膚を傷めることがありますので、注意してください。

○温泉療養の場合は、次のことにも十分注意してください。

- 1 1日当りの入浴回数は、最初の数日間は1回程度とし、その後2～3回まで増やしてください。
- 2 数日後、湯あたり(湯さわり)が現れた場合は、入浴を中止したり回数を減らし、回復をまってください。
- 3 なお、温泉療養に際しては、温泉についての専門的な知識を有する医師(温泉療法医等)の指導を受けてください。



禁忌症・適応症決定年月日 昭和51年 6月16日 決定者 群馬県 社団法人 群馬県温泉協会
作成者 社団法人 群馬県温泉協会